

武道授業における複数種目指導 実践研究（事例報告）

<h3>空手道・柔道</h3> <p>礼儀作法や相手を思いやる姿勢を合気道から柔道につなげることで、武道に真剣に取り組み、対人による攻撃（取り）・受けの段階的な授業の展開</p>	<p>宇部市立上宇部中学校（山口県）</p> <p>電話番号 0836（31）1369</p> <p>メールアドレス kuj@ube-ygc.ed.jp</p>
---	--

●実践研究のねらい

- 空手道から柔道へとつながる複数種目の武道指導を計画し、礼儀作法や対人技能などの基本動作は共通点に気付かせながら、技の指導では、攻撃と受けに明確な約束がある空手道から、攻防を展開する柔道へとつなげることで、武道の攻防についての段階的な指導の充実を図る。
- 外部指導者の活用について、効果的な教師との役割分担を模索すること、限られた単元計画内における外部指導者からの指導内容を精選すること、安全を確保した指導体制を確立することをめざす。

●複数種目指導モデル 全学年（15学級461名）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		
種目		空手道		柔道											
学習の流れ	オリエンテーション (空手道)	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）													
		準備運動				準備運動、基本動作と受け身の練習)									学習のまとめ
		基本動作の学習		基本動作の学習		固め技の学習						投げ技の学習			
		(突き)	対人受け	受け身の学習											
		整理（整理運動、本時の振り返り、あいさつ）													

●指導の工夫

1 効果的に指導するための工夫

- 指導内容の精選
限られた時間内で生徒が達成感を味わうことができるよう、指導内容の精選を図る。
- 生徒の視覚的な理解を促す資料の充実
映像や掲示物などの資料を充実するとともに、資料を活用した協働的な学習場面を設ける。

2 生徒の安全を確保するための工夫

- 安全な運動の行い方の理解
オリエンテーションで、外部指導者より安全な運動の仕方について説明を受ける場を設ける。
畳の上で受け身や対人で練習を行う時は、スペースを決めて場所を確保して安全に取り組める工夫をする。

●授業の様子



【オリエンテーション】

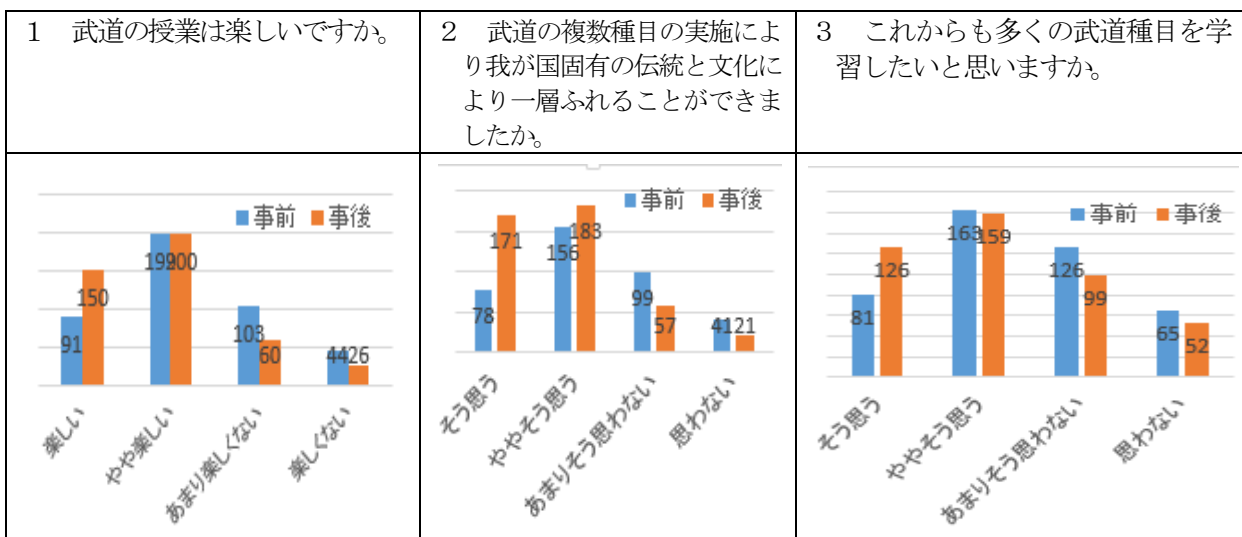
空手道の特性や成り立ち、日本で活躍する選手などについて、外部指導者から指導することにより、武道への関心を高められた。



【対人的技能の練習】

学習する対人的技能は2つとし、繰り返し取り組むことで、空手道の特性を十分に味わえた。

●生徒の意識、感想、変容など



●成果と課題

- 空手道から柔道につなげた学習は、礼儀作法の基本的な動作を身に付けることにより、柔道の授業でも「礼」に始まり「礼」に終わる態度を自然と行えるようになった。
- 「攻撃」や「受け」などに共通する点を見出すことができ、技能の習得についても、身に付けやすかったと感じる生徒が多くいた。意識調査の結果から、大半の生徒が複数武道の学習を肯定的に捉えているが、そうでない生徒も一定数いるため、生徒の状況によって、個に応じた支援が講じられるよう指導方法を更に工夫していく必要がある。
- 空手道においては、外部指導者の存在は大変重要である。専門性が高く、授業で教員は生徒の安全管理に終始してしまう状況もあったため、教員研修を進めることと外部指導者との役割分担や連携を明確にした指導計画について、引き続き検討していく。
- これまでの柔道10時間の指導計画に空手道3時間を加えて単元計画としたが、空手道は、あと2時間程度増加できると学習がより深まると考える。そのためには、武道のうちで調整するか、他領域と調整することが必要となるが、各種目に必要な時間数を確保しながらの時間の捻出は課題となる。